



山田 早苗 日本共産党

### 給食食材の放射線量検査について

**質問** 内部被曝の恐ろしさは多くの研究者や技術者が言っている。給食の放射線量測定の実態はどうか。測定下限値を厳しくして安心のアピールをしてはどうか。検査の回数や基準は2核種合計25ベクレルを求められているが現状は、独自の検査体制をもつ意思はないか。

**答弁** 簡易検査で現在まで46回92品目を実施。下限値を超えていない。各20ベクレル合計40ベクレルで検査をしている。今のまま継続する。



宮脇 雅夫 日本共産党

### 吊り天井の落下防止対策を

**質問** 学校施設は子どもたちが学び生活する場であり、避難所となる。東日本大震災では、多くの学校で、屋内運動場の吊り天井（非構造部材）が落下し、高所からの落下物の防止策の重要性も認識された。当市の社会教育施設の体育館等も含め、落下防止対策を早急にすすめる必要があるのではないか。

**答弁** 昨年、学校施設の非構造部材は点検を実施した。吊り天井のある分田小は今年度撤去予定で、保田小、赤坂小、山手小、安田中は来年度以降に撤去する計画。吊り天井がある水原総合体育館は、構造体と非構造体の耐震化を急ぐ必要がある。

### 特養ホーム増設で待機者の解消を

**質問** 市の第5期介護保険事業計画（H24年度～26年度）では、特養ホームの待機者が多いが整備計画はゼロである。

**答弁** 「介護のため職場を辞めなければならぬ」、「病院や施設のたらい回しで介護難民」、「老老介護で共倒れ」などの深刻な状況が進んでいる。待機者の解消を図る。また、私費で以前提案した、廃校を利用した整備は、「国民年金でも入れる特養ホーム」と願う市民に配慮し、地域の過疎化を防ぎ、整備費も減らさざるを得ない。推進すべきである。

### 公園の遊具など設置状況について

**質問** 子どもたちは、体を使って遊び体感し経験することで成長する。市内の公園は遊具が少なく、外で遊ぶ子どもが少なくなると嘆く声も聞くが、環境整備は大人の責任。現状は。

**答弁** 市内の公園は、遊具設置後年月を経ているものが多く、対応に苦慮している。市内の主要な公園12カ所については、施設の長寿化計画を策定し、コスト削減の観点から延命化、撤去、入替えなど自治会と協議している。

### 山公園の充実



### 従軍慰安婦問題について

**質問** 日本維新の会代表橋下大阪市長が、「日本軍の慰安婦制度は必要だった」と発言し、国内外から抗議と非難の声が上がった。河野談話で日本軍による強制性と国の関与を認め、村山談話で植民地支配と侵略を謝罪した。それらを否定する橋下発言は、苦難を強いられた被害者の尊厳を更に傷つけ、すべての女性の人権をないがしろにするもので許せない。世界から信頼を失う結果となった。市長の見解は。

**答弁** 橋下氏が公党の代表だったため、大きな問題となった。天長山公園は、県の文化財指定を受けており、遊具の設置は現状では非常に厳しい。

### その他の質問

◆病後児保育、子育て支援について



山崎 正春 阿賀野クラブ

### 4月の暴風被災者の救済対策はどうする

**質問** 4月6日・7日の暴風による農業施設への被害状況は、育苗ハウス等の一部破損は186棟（内全壊25棟）、農作業場の屋根などの破損12棟で、想定被害額1824万円とのこと。

**答弁** 県農林水産業総合振興資金の借り入れをお願いし、利子補給したのかを伺う。

### 観光事業の振興を図れ



村上 清彦 公明党

**質問** 観光の推進のためにスベシャリストリーダーの存在が欠かせないことから、人材の育成は必要不可欠であると思うが、育成状況はどのようになっているのか。

**答弁** 平成23年度と24年度に開催した「まちあるきガイド養成講座」の受講生により設立した「阿賀野市まちあるきガイドの会」が、昨年6月から活動を始めている。現在、16人の会員が、昨年度にま

### 福島第一原子力発電所の事故による放射性セシウムを含む発生土について

**質問** 大室浄水場に東日本大震災による放射性セシウムを含む発生土が1210トンと大量に保管されている。

**答弁** 当市のように、阿賀野川を水源としている市町が放射性セシウムを含む発生土に困っているようだが、関係団体と連携を取って、早期に処分ができるよう検討すべきであるかどうか。

で対応している。しかし、今のところ申し込みはゼロである。

**意見** 農家の希望、意見を聞かずに対策を取っても、申込みゼロであれば何もならない。

新発田市や新潟市のように、補助事業を素早く実施してこそ農家のためになる。心の通じた救済事業で、それが再生産のためになる。



大室浄水場に保管されている発生土

ちあるきツアーを4回開催し、ツアーの参加者に阿賀野市の観光の魅力をお伝えした。今後は、徐々にエリアを拡大し、阿賀野市を訪れるお客様に各地域の魅力を伝えられるよう、事業の拡充に取り組んでいく予定である。

**質問** 観光地としての整備について、観光施設、案内看板の一層の充実が必要ではないか。

**答弁** 観光振興のための情報の発信と案内、また特産品販売など情報提供目的の拠点としての観光施設や観光地等へ誘導する案内看板は、誘客を進めていく上で重要なものであり、観光地の「顔」とも言える不可欠なものと考えている。瓢湖周辺には観光物産館の機能を持つ施設がぜひ必要。「瓢湖憩の家」の活用も視野に入れ整備したいと考えている。案内看板についても、目的地まで安心して到着できる、分かりやすくきめ細かな誘導が必要。迷いやすい箇所を点検し整備していきたいと考えている。

**質問** 魅力ある観光地域づくり推進のため、広域での観光圏形成に積極的に取り組むべきだと思いが。

**答弁** 国の観光圏の認定を受けるためには、第一に近隣自治体との協議が必要。新発田地域振興局管内自治体や、阿賀、五泉地域からなる阿賀野川ライン観光協会の構成団体と連携し、本地域の広域観光の進め方について協議を行っていききたい。

